

# 雲の手通信

2006年9月

第27号

発行人 茶木 登茂一

====このお便りは私が担当している太極拳教室の皆さんに毎月お届けしています。====

## 今月のトピックス

### 10月1日に「第8回野外太極拳の集い」開催

日本健康太極拳協会東京都支部・北地域主催の標記の催しが下記の要領で開催されます。どなたでも参加出来ますので、ふるってご参加ください。秋の一日を地域の各教室のお仲間とともに太極拳を楽しみましょう。

日時； 10月1日(日) 10時～12時

会場； 荒川区「尾久の原公園」(荒川区東尾久7丁目) 【北千住からバスで10分、詳細は別途】

参加費； 500円(飲み物代ほか)

申し込み； 9月17日までに参加費を添えて申し込んでください。

## 健康妄語録

### 帯津良一先生のこと

前回ご紹介した帯津良一先生の話の続けます。ご存知の方も多いと思いますが、一応そのプロフィールを先生の著書の奥付けから引用してみます。

『1936年生まれ。東大医学部卒業。医学博士。都立駒込病院外科医長職を辞して、1982年に自ら帯津三敬病院を開院。現在同病院名誉院長を務めるかたわら、日本ホリスティック医学協会会長、調和道協会会長、世界医学気功学会副首席などを兼務。がん治療の現場で、西洋医学と中国医学を結合し、その上に各種の代替医療法を加える独自のホリスティック医療を実践。日本におけるホリスティック医学の第一人者として活躍している。』

ということですが、私が帯津先生の業績や考え方を詳しく知ったのは、1997年に出版された先生の「自然治癒力」(ゴマブックス)という著書を読んだこと。今でこそ、テレビでも、雑誌でも、当り前のように「自然治癒力」を取り上げていますが、当時はまだどちらかといえば異端的な考え方であった時代で、先生自身も「自然治癒力は、現代の科学ではまだまだ証明されていませんが……」と前書きで断っているくらいです。

現在一般的には人間が備えている「恒常性維持機能」、「自己防衛機能」、「自己再生機能」などを指し、白血球、ホルモン、各種酵素などが自律神経の玄妙な働きによって機能することを「自然治癒力」といっていますが、先生の視点はこれとちょっと違って、そのような機能はあるにせよ、それを効果的に或いは必要な時に発揮できるか否かはその人の生命力(ポテンシャル)の強さ次第であるということです。これは多分に中国古来の『気』の概念に近いものとも私は解釈しています。母の胎内から受け継いできた『先天の気』と、生きてゆく過程で補い、培ってゆく『後天の気』の総和がいわゆる『気』(ポテンシャル)であるという考え方です。(詳しくは指導用資料⑥呼吸⑦自然治癒力⑧気と気功などをご参照ください。)

先生の発想はさらに雄大で、人間のそのポテンシャル(エネルギー)は宇宙誕生のビッグバン以来引き継いできたものであり、人間のすべてはそのエネルギーが生命力の根源であって、死によってふたたびそのエネルギーは虚空(大宇宙)へ戻ってゆくのだ、往復300億年の旅なのだというものです。このところはたいへん難解ですが、“極楽への戻り旅”とでも考えれば分かりやすいのではないのでしょうか。先生が駒込病院の外科医長という要職を投げ打ってご自分が信ずる医療を実践するためご自分で病院

を開いたことはたいへん画期的なことです。この病院には広い道場があつて毎日朝から夕方まで気功や太極拳などのカリキュラムが組まれていて患者はいつでもこれらに参加できるということです。まさにここは日本におけるホリスティック医療の最先端基地なのですね。

## 旅をうたい拳を詠む

今年の夏に詠んだ歌のいくつかをご紹介します。

また歳を重ねる月が来ましたと

孔雀<sup>くじやくきぼてん</sup>仙人掌きっぱりと咲く

誕生月の7月になるとベランダにある鉢植えの孔雀仙人掌が大輪の花を咲かせます。72歳になりました。

公園の小さな溝は屠殺場

蟻が曳き来るミミズにカナブン

さるすべりのたわわな房でかくれば花虻二匹出たり消えたり

【写真；孔雀仙人掌】

朝の散歩と太極拳は毎日の日課ですが、自然に触れ合い共鳴する時間でもあります。

もみじ木の樹下に避けつつ露天湯<sup>ゆおも</sup>の湯面に落ちる雨滴楽しむ

半世紀の昔登りし青春の磐梯山いまいや高くあり

50年ぶりに裏磐梯に出かけて、温泉と散策を楽しんで来ました。

## 再掲・用語解説 上下相随<sup>じょうげそうずい</sup>

健康太極拳の「基本五ヶ条」のひとつで、“腰の動きが中心となり、前進は上肢が、後退は下肢が先導する”とされております。2004年10月10日に行われた秋の指導者研修・審査会のおりに、楊進理事長が、壇上で「野馬分鬚」を例に実際に動かれながら詳しくご説明されましてたいへん参考になりました。つまり相随とは、同時ではなく、どちらかがどちらかに随って動くということ」だということです。そして「前進するときには上肢、それも手先から、先に動き出す」のであり、「後退するときには下肢がさきに動く（緩む）」ということです。これ以上言葉で説明することは難しいので、各教室で皆さんと一緒に勉強したいと思います。

## 遊印遊語 20年目の篆刻印

篆刻を始めてから今年で丁度20年になります。その間およそ500顆（個）もの印を彫ってきました。詩文や成句を彫ったいわゆる「遊印」、また「姓名印」

や「落款印」など多岐にわたります。

書道をなさっておられる方からのご注文で彫ったものが過半ですから、ずいぶんと大勢の方の印を（未熟を顧みずに）彫ってきたものです。

この印は20年目のこの夏、永年の友人である「甲斐研」さんに彫って差し上げたものです。（「研」の字は本来の<sup>つくり</sup>「𠄎」をちょっといじって上下にずらしています。）印材は数年前に北京で手に入れたものですが、岩峰のような形をしていて、かつ山水の景が胴部にぐると彫られている優れものです。良い人に良い印材を使って彫ることが出来ました。またご当人にもたいへんよろこんでもらいました。これも篆刻の大きな楽しみの一つです。

